

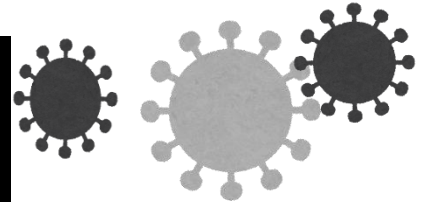
情報 ひがし労

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

編集者 情宣部

寒い冬に備える



第8波と新たな変異株に警戒!

新型コロナの新たな変異ウイルスへの感染が海外で急速に増えています。通称「**ケルペロス**」と「**グリフォン**」です。今月に入って増加していることが分かり、第8波への警戒が必要です。

シンガポールでは、オミクロン株「XBB」、通称「**グリフォン**」に感染する患者が急増しています。最新の発表では半数以上が「**グリフォン**」に置き換わっています。

シンガポール在住の医師からは、「一度新型コロナウイルスに感染した人も再び感染する恐れがあり、ワクチンを打っている人でも感染するところがある」と述べています。BA.5が主流だったのが急に「**グリフォン**」が増えたと理解する」と述べています。「**グリフォン**」は現在、シンガポールやインドなど、21カ国で確認されています。

新たに確認されたオミクロン株の亜型

系統	名称	特徴	都内の確認数	主な世界の検出状況
BA.5	BF.7	英国でBA.5より増加率が1.18倍	131件	デンマーク、ベルギー、米国
	BQ.1	英国でBA.5より増加率が1.29倍	46件	米国、英国、フランス
	BQ.1.1含む	免疫を回避する可能性		
BA.2	XBB	BA.5より感染力が高い 免疫を回避する可能性	6件	シンガポール、インド

※東京都の資料を基に作成

10月27日付け©東京新聞 web より抜粋

さらにEU（ヨーロッパ連合）の専門機関が「注目すべき変異株」に指定し、注意を呼び掛けているウイルスがあります。「BQ.1」、そして「**ケルペロス**」とも呼ばれる「BQ.1.1」です。現在、日本では「BA.5」が主流となっています。そこからさらに派生したものが「BQ.1」系統なのです。「**グリフォン**」はアジアを中心に、そして「**ケルペロス**」は欧米で感染が急速に拡大。どちらもゲノム解析の結果、東京都内での感染が確認されています。2つのウイルスの共通点、それは「免疫逃避」の可能性が有ることです。

専門家は「免疫逃避ということは、感染力が強くなるという意味合い。ただ病原性については、今までのBA.5と同じように、致死率とか重症化率が高くなるような報告はない。これだけ変異を繰り返してきたウイルスであれば、病原性は徐々に低くなっている」と述べています。

一時期より感染者数は減ってきているとはいえ、新たな脅威となる「**変異株**」が世界で次々と生まれています。



手洗い・うがい・マスクの着用!

新型コロナウイルスを「正しく恐れ、決して侮らない!」